

令和8年度

北井上小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○児童が自ら考えるためのきっかけをつくり、校内外問わず意欲的に取り組めるようにするための学習活動を行う。
○習ったことを活用する力を高める。

校長

松田 和代

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている児童が多い。 ●文章問題や文章作成になると、習った知識をどのように活用すればよいかわからない児童が多い。	・語彙を増やし、正確に文意を読み取ることができる。また、適切な語彙を選んで文にまとめることができる。 ・予想と違った知識を新たな既習知識として、さまざまな場面で活用することができる。	・子ども新聞を活用し、語彙力を高める。 ・知識をアウトプットできるように、授業で読む・書く・話す時間を十分にとる。 ・「なぜ」「どのように」を中心とした発問をする。 ・ICTを効果的に活用して、個に応じた支援を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の思いを、積極的に教師や友達に話す児童が多い。 ●自分の考えを、順序立てて分かりやすく説明したり、文にまとめたりすることへの苦手意識が強い。	・根拠や理由を明らかにしたり、筋道立てたりして、相手に分かりやすく伝えることができる。 ・説明や文章作成に慣れ、自信をもって意見を伝えることができる。	・ポジティブ行動支援を充実させる。例えば、楽しんで書く活動を取り入れたり、目的や相手意識をもって文章を書く活動を設定したりする。また、互いの考えを認め合うために、児童同士で共有し、感想を伝え合うようにする。 ・ICTやホワイトボード、付箋などを効果的に活用し、「図示する」「操作しながら説明する」「意見を分類する」など、表現の幅を広げる。 ・型を提示し、文章作成や発表に慣れていくことができるようにする。 ・委員会活動やクラブ活動、学校行事など、授業以外でも児童が主体となって取り組む機会を増やす。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学校・家庭どちらでも、与えられた課題に粘り強く取り組む児童が多い。 ●与えられた課題以外の自主学習に取り組む児童が少ない。 ●読書活動に真摯に取り組む児童が多いが、「読書活動が好き」と感じる児童は少ない。	・与えられた課題だけでなく、自ら課題を見つけて取り組み、学びの楽しさを実感することができる。	・自主学習の内容を充実させる。また、自主学習に積極的に取り組んでいる児童を紹介する。 ・「家庭学習の手引き」をもとに保護者の家庭学習への意識を高め、協力体制の強化を図る。 ・1万冊読書運動やマイブックリストなど、楽しんで取り組める読書活動を推進する。また、家庭への読書活動の啓発を行う。			